

次代への

継承者

三重県伊勢市で、バラを栽培する藤原徹也さん(41)は、品質向上と省力化の両立を目指している。全てのハウスに環境制御システムを導入。24時間、どこからでも、気温や二酸化炭素量、湿度などの環境データをグラフとして把握できる。手本とするグラフに近づけることを目標に、試行錯誤を続ける。

△ ▼

肥料価格が2倍になるなど生産コストが高止まり

△ ▼
ついでに。藤原さんは、環境制御システムを活用することで、生産コストを削減しながら、収量を確保し、品質を落とさな

藤原徹也さん(41) 三重県伊勢市・バラ



バラの生育を確認する藤原さん

品質向上と省力両立

60坪でバラを栽培。品種は「プリランテ」や「サムライ08」「アバランチエ」などブライダル需要の高い赤・白系を中心に16品種を作付け、JA伊勢に出荷する。家族3人と従業員10人の計13人で作業する。

本年度は、防除作業の省力化に向け、うどんこ病の抑制に効果のある「紫外線(UV-B)蛍光灯」を導入した。今後は天敵の活用など新たな方法も検討しているという。

△ ▼

バラ栽培は父の後を継いで始めた。両親が朝から晩まで休みなく働く姿を見て育ったため、小さい頃から、農業の働き方はこれが普通だと考えてきた。

7年前の環境制御シス

藤原さんは「働き方は多様化している。この働き方がこれから若い世代が農業を始める際の一つのモデルケースになれたら良い」と話す。
(三重・JA伊勢Ⅱ濱千代麻梨香特別通信員)
(毎週日曜日掲載)